

火災から甦った名門ロッジ

アニマルフォトグラファー

トラベルライター

平 岩 雅 代

今夏も恒例の“里帰り”で、8月と9月にケニアの雄大な自然を満喫してきました。

夏はケニアのマサイマラに、数百万頭ものヌー(ウシカモシカ)の大群が集まる大移動のシーズンです。ヌーやシマウマのあとを追って、捕食動物のライオン、ハイエナ、チーター、ジャッカル、ハゲワシなどの姿も目に付きます。

広大な草原(サバンナ)で繰り広げられる野生動物たちの生と死を賭けたドラマの行方もさることながら、今回気掛かりだったのは今春厨房からの出火によって、食堂、そしてラウンジが焼け落ちてしまった名門宿泊施設、キーコロックロッジのその後でした。

面積が大阪府とほぼ同じというケニア屈指の野生の王国、マサイマラ国立保護区でも最も有名なキーコロックロッジが営業を始めたのは、ケニアの独立からわずか2年後の40年前のこと。英国植民地時代から数多いハンターたちがこの地にキャンプを張り、猛獣狩りのためのベースにしていたところに、英国人一家のブロックファミリーがロッジを建て、1965年に開業したキーコロックロッジ。エリザベス女王を始め、世界中の来賓を迎えてきたのですが、今春火

災に見まわれ、丸2か月を費やして大改修工事を行いました。

不幸中の幸いだったのは、広い敷地に客室が食堂とラウンジを囲むように建てられており、延焼を免れたこと。消防自動車がある町と違い、一度出火したら焼け落ちるまで手のほどこしようもなく、黙って見守るだけ。宿泊客と従業員もスムーズな避難誘導によって全員無事だったのは何よりでした。

半年振りに訪れた新生キーコロックロッジは、フロントから開放的な造りで、かつての英国調の重厚さは失われていましたが、ラウンジ、バー、食堂がひと目で見渡せるようになりました。防火対策には殊の外に



写真1 明るく開放的なキーコロックロッジのラウンジバー

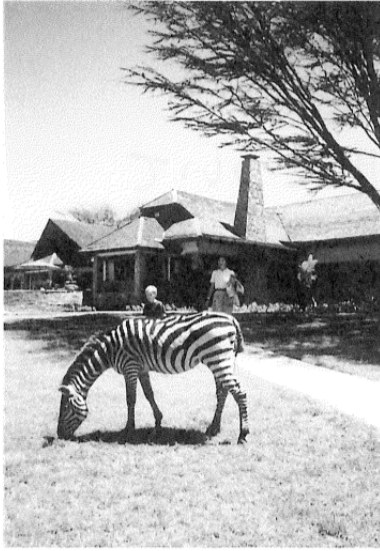


写真2 敷地内でおとなしく
草を食むシマウマ

神経をつかい、全室禁煙の“ノースモーキングロッジ”になり、愛煙家は食堂の外のオープンエアラウンジでのみ喫煙が許されるように変わりました。

一部の客室を除いて大幅な改装工事も年内いっぱい続いており、ロッジに居ながら野生のカバの鳴き声を耳にすることができたり、シマウマやイボイノシシが敷地内でおとなしく草を食む姿が見られたり、興味深い体験をすることができます。余談乍ら、ラウンジの中程に火災で焼けこげた木が保存されており、火事の恐ろしさを物語っています。

日本初のアフリカ動物写真常設ギャラリー
「平岩ボレボレギャラリー」誕生

世界で唯一の動物写真家父娘として長年にわたって活躍し、2004年2月に「平岩アフリカツアー」実施100回を記念してケニア政府から外国人として初めて“観光親善大使”に任命された平岩道夫&雅代父娘の、常設ギャラリーが東京に誕生した。

平岩道夫氏が70歳（古希）の誕生日を迎えたのを記念して準備を進めていたもの。

「長年の夢がようやく実現しました。1972年に初めてケニアを訪れて以来、33年間思い描き続けてきたアフリカ（ケニア、タンザニア）の動物写真パネルを展示する、常設ギャラリーです。14階建てマンションの9階に位置する3LDKの部屋じゅう、すべてが展示スペースになりました。私と娘の雅代が撮影した、ケニアとタンザニアの野生動物、人物風景などの写真を始め、これまでに出版した28冊のアフリカ動

物写真集や、エッセイ集、CD-ROM、ビデオテープ、マコンデ（黒檀の木彫り）を含む珍しいアフリカ民芸品などを展示。さらに現在も父娘で年6回“里帰り”している私たちの第二の故郷、ケニアとタンザニアの最新旅行情報を発信してゆきます。もちろん入場無料ですが、来場ご希望の方は、前もって電話（03-3316-6234）またはFAX（03-3312-7558）へご連絡ください。

「平岩ボレボレギャラリー」は、地下鉄・東京メトロ丸の内線「新高円寺」駅下車、青梅街道沿いに荻窪方向へ徒歩5分。高円寺プラザ910号室（住所は東京都杉並区梅里2-25-13）。開館は連日午前10時～午後6時。

ギャラリーの名称の“ボレボレ”とは、東アフリカ（ケニア、タンザニア、ウガンダ）の公用語であるスワヒリ語で“ゆっくり、のんびり”という意味。平岩父娘は「いつも忙しい、忙しいと追い立てられている日本人にこそ大切にしてもらいたい言葉なので、あえて“ボレボレギャラリー”と名付けました」と話している。